



健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

結核予防会のCOVID-19対策

公益財団法人結核予防会 理事長
新型コロナウイルス対策本部
本部長 工藤 翔二



はじめに

結核予防会では、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について、2020年の2月から患者の受け入れを始め、1年8カ月が経とうとしています。

結核予防会およびその施設が、最初の患者を受け入れてからこれまでの対応について、婦人会の皆様にご報告します。

病院における対応

2020年2月に最初の患者が入院したことを契機に、複十字病院では院内の職員集会で、COVID-19の説明会を開催し、感染対策の整備を行いました。また、4月からは新型インフルエンザの院内会議を立ち上げ、ほぼ毎週職員の結束を図ってきました。

2021年9月12日までに543名(入院347名・外来196名)の患者に対

応してきました。特筆すべきことは、院内クラスター(集団感染事例)を発生させることなく、またCOVID-19のリスクを理由とした看護師の離職を生むことなく、医療を継続できたことです。もともと結核を扱う専門病院ですので、空気感染対策や2009年の新型インフルエンザ対応で培った「発熱外来」、そして感染症専用の「陰圧個室(菌やウイルスを外に出さない病室)」が整備されていたことが大きな要因です。

さらにPCR検査が滞った時期には、患者に速やかに胸部CTを実施して、CT所見から診断を進めるという卓越した画像診断能力が、発揮されました。

東京都清瀬市の基本型接種施設に位置付けられていて、2021年5月末からは毎週土曜日に高齢者を対象にしたワクチン接種を行ってきました。1日に240~300人程度ですが、7月中に接種を完了でき、予防会と複十字病院は、清瀬市長

から感謝状を頂きました。

COVID-19対応の医療施設ではない新山手病院や老人保健施設「保生の森」でも、“職員が感染しない、施設内に持ち込まない”ことを合言葉に、厳格な感染予防処置によって、院内・施設内クラ



清瀬市の中学生から寄せられた感謝のお手紙(複十字病院提供)



総裁秋篠宮皇嗣妃殿下からコスモスの感謝の花束を頂きました(複十字病院提供)

スターの発生を免れています。

研究所における対応

2020年の春に話題にあがっていたCOVID-19に対するBCGワクチンの効果について、日本結核・非結核性抗酸菌症学会の見解「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）とBCGワクチンの接種に関して」（2020年4月6日公表）の作成に協力しました。また、COVID-19禍での健診の遅れから、新規の結核患者発見が遅れることなどをまとめ、結核対策の継続を強く訴えました。

また、国際結核・肺疾患予防連合（The Union）が公表するガイドラインについて、日本語訳を提供するなど、ホームページから簡単に最新情報が入手できるようにするなど、国際協力にも尽力しました。

さらに保健師や看護師への情報提供として、海外で行われているCOVID-19と結核の対策について、英語の論文を解説し、結核予防会で出版している雑誌に投稿し

て、医療従事者への普及啓発にも力を入れています。今まで対面で行ってきた研修（国内・国際）もほぼオンライン（ZOOMを活用）で実施されています。なかなか研修などでインプットする時間のない専門職にも自宅・職場で聴講することができ、好評を博しています。定員がすぐに埋まってしまうことも多いため、回数を増やすなどの工夫を行っています。

健診業務

本会の総合健診推進センターをはじめ、全国の支部では健診の中断や制限を余儀なくされてきました。そこで、協力団体の日本対がん協会、予防医学事業中央会とともに、厚生労働省へ「健診・検診機関へのマスク等の優先配布について」という要望書を2020年3月に提出しました。

また、結核予防会を含む健診8団体による感染予防マニュアル「健康診断実施における新型コロナウイルス感染症対策について」を公表し、安心して健診を受けていた

だけのように対策のポイントをまとめて、健診機関にお示ししました。この内容は、内閣官房の新型コロナウイルス感染症対策推進室のホームページ「業種ごとの感染拡大予防ガイドライン一覧」(<https://corona.go.jp/prevention/>)にも紹介されています。

婦人会の皆様へ

今年3月に開催されたオンラインによる第72回「結核予防全国大会」の研鑽集会のなかで、全国各地の婦人会の皆様が、コロナ禍でもさまざま地域活動を続けてこられた発表を拝聴しました。

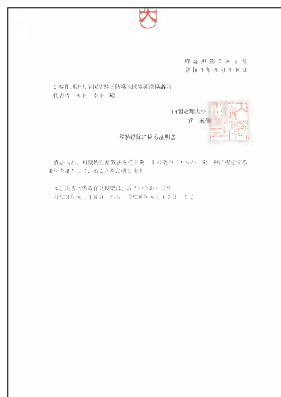
ワクチン接種もお済みになり、マスクや手指消毒などの感染対策を継続しながら、現在も結核予防に関する啓発活動を続けていただいていると存じます。

「明けない夜はない」ことを心にとめ、皆さまとともに全力を尽くしてまいります。引き続きの感染防止にご尽力くださいますよう、紙面上ではございますが、お願い申し上げます。🍷

税額控除証明書が発行されました

本年8月18日に、内閣総理大臣から当会会長に税額控除の証明書が発行されました。当会への寄附は、法人税法施行令第77条第1項第3号および所得税法施行令第217条第1項第3号に該当する法人として税法上の優遇措置が受けられます。

当会にご寄付いただける方々に領収書を発行する際には、証明書と税の優遇措置についての説明書を一緒にお送りいたします。何卒よろしくお願い申し上げます。🍷



マスクケース完成！

7月末にシールぼうやデザインのマスクケースが完成しました。ダブルポケットで使用中のマスクと予備マスクを一度に収納できます。

1個100円で追加のお申込みもお受けします。

ワンコイン募金となりますので、ご連絡お待ちしております。婦人会事務局



結核感染やBCGと新型コロナウイルス感染症の関係は

東都大学沼津ヒューマンケア学部
公衆衛生学教授 松田 正己



2020年の春、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）が世界に広がり始めた頃、日本も含めたアジア地域のCOVID-19の死者が、欧米に比べて、比較的になかった時期がありました。例えば、2020年4月1日での人口100万人あたりのCOVID-19による累積の死者数¹⁾（以下、英国オクスフォード大学のOur World in Dataより）は、ヨーロッパが47.41に対してアジアは1.59と約30倍であり、特にイタリアは217.91と飛び抜けて高く、日本は0.57と低かったのです（図左）。なお、2021年9月21日現在の時点で、それら死者数の指標はヨーロッパ（1608.83）はアジア（233.79）の約7倍と差は縮まりつつあります（日本135.27）。なお、最近では南米が2635.26と高く、特にペルー（5962.06）が顕著です（図右）。

アジアのCOVID-19の死者が少ない原因に、BCGがCOVID-19の予防に関係しているのであろうという説²⁾がありました（参考：慶長直人、土方美奈子、BCGと新型コロナウイルス感染症の問題、複十字393, p7, 2020）。

BCGとは、ご存じのように、Bacille Calmette- Guérin（菌、カ

ルメットとゲランという研究者）の頭文字であり、結核菌を弱毒化させた生ワクチンです。日本などのように接種している国と、欧米のように結核が低蔓延化した地域では接種を中止している国があります。BCGとCOVID-19については、その後も検討が進められていますが、未だはっきりとしたことは分かっていないようです。但し、BCG接種により、自然免疫が刺激されて強くなる“訓練免疫”があることは確かなようです。気の早い人は、BCGをコロナ予防に接種しようとしたためか、一時は、BCG ワクチンの不足までが心配され、日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会は、「乳児への BCG ワクチンの優先接種のお願い」（2020年4月3日）という文書を出しています。

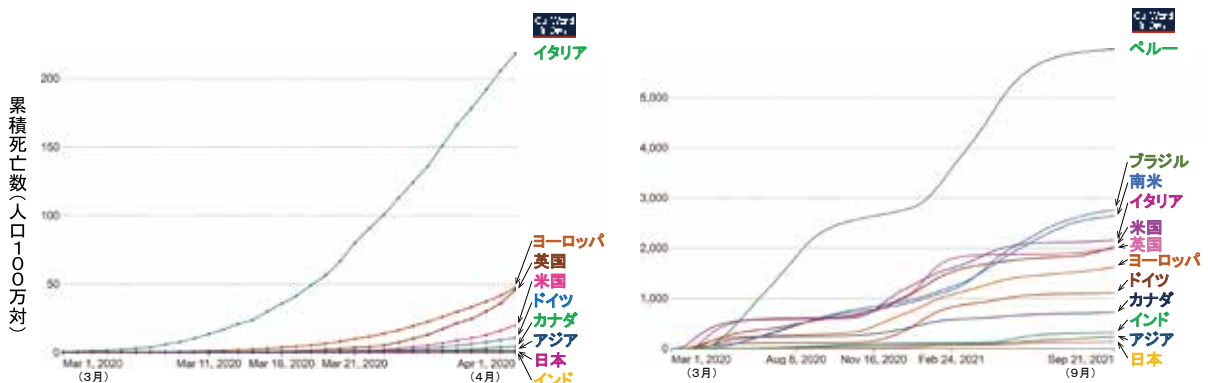
2021年になって、新たに提示されている説は、BCG接種よりも、過去において結核菌への感染、結核症の罹患が、COVID-19による悪化と死亡を防ぐ役割を果たしているのであろうという日本人の研究者による説³⁾です。潜在性結核感染症（結核菌に「感染」しているが、「発病」はしていない状態、症状はなく、人に感染させることもない）では、結核菌が持続して免疫系を活性化し

続けているというのです。日本では、1950年の時点で20歳以下の若者の半数以上が結核に感染していたのであり、2018年でも世界人口の1/4が結核に感染しています。この研究は、国レベルでの、大規模なデータ解析（前述のOur World in Data や米国CDC、結核予防会など）からえられた結果であり、興味深いものがあります。今後の更なる検証が待たれます。🍷

文 献

- 1) Our World in Data. <https://ourworldindata.org/explorers/coronavirus-data-explorer>.
- 2) Miller A, Reandelar MJ, Fasciglione K, et al. Correlation between universal BCG vaccination policy and reduced morbidity and mortality for COVID-19: an epidemiological study. medRxiv, 2020年3月24日.
- 3) Inoue K, Kashima S. Association of the past epidemic of Mycobacterium tuberculosis with mortality and incidence of COVID-19. PloS One 2021; 16(6): e0253169. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0253169>.

COVID-19の確認された累積死亡数(人口100万対)2020年4月（左）と2021年9月（右）の比較
検査等で確認された数のため、正確なCOVID-19死亡数を示すものではない



出典：ジョンズ・ホプキンス大学CSSE COVID-19データ

BCGと子どもの結核

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

BCG接種開始から100年

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を予防するワクチンが短期間のうちに開発され、世界各地で接種が進んでいることは、これまでの結核対策をふり返るきっかけにもなっています。

BCGワクチンは、乳幼児と子どもの結核を予防する効果が認められているワクチンです。乳幼児や子どもは、まだ免疫機能が発達していないため、結核に罹患し、発症すると、重症化しやすく、全身に炎症が広がる粟粒結核や結核性髄膜炎になり、生命が危ぶまれる状態になることもあります。BCGによって感染と発病を予防することができます。

今年からちょうど100年前の1921年に、初めてフランスで乳幼児にBCGが経口投与されました。その後、ヨーロッパから世界各国へ広がり、日本では、1924年に赤痢菌の発見者である志賀潔によって導入され、1929年に初めて乳児に経口投与されました¹⁾。

第二次世界大戦後に、混乱と窮乏の中で結核が流行することを食い止めるために、北欧の赤十字やユニセフ（国際連合児童基金、UNICEF）の働きかけからBCG接種キャンペーンが始まり、東欧や北アフリカ、中東やインドで接種がおこなわれました。さらに、1974年にWHO（世界保健機関）は、ポリオ、破傷風、百日咳、ジフテリア、麻疹の予防ワクチンとともに、BCGを結核予防ワクチンとして「予防接種拡大計画（Expanded Program on Immunization, EPI）」に組み込み、ワクチンで予防できる子どもの疾病対策の柱としました²⁾。

現在、このようにしてBCG接種が結核対策として導入されている国々では、2020年の接種率は平均で約85%と推定されています³⁾。

BCGワクチンは、結核研究所が開発した凍結乾燥による保存の長期化、接種方法も黎明期の経口投与から皮内注射、経皮接種（スタンプ式）へと進歩して、接種しやすくなりました。

日本の小児結核の歴史

日本で結核が広く流行したのは、明治中期以降、製糸・紡績を中心とした工業化が進んでからでした。結核死亡率が最も高かったのは1918年のことで、全世界で流行したインフルエンザ（スペイン風邪）の影響といわれています。その後、減少傾向になりましたが、1930年代から1950年まで日本の死因の第1位を占めました⁴⁾。子どもの結核患者も多く、その対策の一つとして、1948年に現在の東京都清瀬市に「都立清瀬小児結核保養所」が開設されました。当時、清瀬市には、結核予防会の複十字病院を含む15施設、5,000床の結核病床がありましたが、小児結核の専門施設としては唯一のものでした。1950年代半ばには300床を有し、たくさんの子どもの結核患者を受け入れ、また多くの子どもを看取った施設でした^{5), 6)}。

小学校での集団感染と結核予防婦人会の誕生

1950年の夏、秩父宮妃殿下は長野県内の結核療養所を訪問されたときに、結核予防活動に取り組む長野市連合婦人会の幹部と懇談され、お励ましになりました。その後の9月に長野県御代田村の小学



BCG接種を受ける子ども
昭和42年結核予防週間ポスター
(画像提供 結核予防会)

校で結核の集団感染が発生したことが、婦人会にも大きな衝撃として受け止められ、まず長野市結核予防婦人会が設立されました。続いて県内で婦人会が組織化され、1957年に結核予防婦人会長野県連合会が設立されました⁷⁾。

以後、日本各地で結成された結核予防婦人会は、地域の身近な人々に結核検診の受診を勧めるとともに、BCG接種についての正しい知識を広めていく活動をおこなっていきました。家庭や地域に根ざした婦人会の取り組みは、日本の結核を減らす上で大きな力になりました。

BCG接種と日本の小児結核の今

日本では、1951年に結核予防法が施行されてから、BCGの接種が法律に基づいておこなわれるようになりました。

当初は、ツベルクリン反応検査

で陽性以外の反応の場合にBCGを接種しました。2002年度まで、幼児期、小学校、中学校でツベルクリン反応検査とBCG接種がおこなわれていたので、学校で受けた予防接種だと記憶されている方もいらっしゃるかもしれません。現在では、ツベルクリン反応検査なしで、標準では生後5か月以上8か月未満、遅くとも1歳までにBCGを接種することになっています。

日本は、BCGの接種を長く続けてきたことや、結核患者の接触者健診で乳幼児の優先度を高めるなど、厳密に対応してきたことによって、世界においても、子どもの結核がとても少ない国になっています。2020年に報告された14歳以下の患者は52人です⁸⁾。

しかし、子どもの結核患者は、特にBCGを接種していない場合、ひとたび発病すると、重症になりやすい傾向があります。子どもの結核の診断について、医師の知識や技術を維持することが課題だといわれています。また、子どもの患者も外国生まれの割合が大きいことが、診断や治療の遅れに影響している可能性もあります。特にコミュニケーションに課題を抱える家族と子どもへの支援が大切です⁹⁾。

世界の小児結核の今

世界に目を転じると、小児結核は未だに大きな課題です。WHOの2020年の発表では、2019年に世界で約1000万人が結核に新たに罹り、そのうち120万人が15歳以下の子どもでした¹⁰⁾。

結核に罹った子どもは、ほとんどが同居する家族から感染しているといわれています。BCG接種に加えて、結核患者の身近にいる子どもの検診と予防内服が主な対策ですが、WHOによると、19歳以下の青少年と子どもの患者のデータの収集が課題になっている地域もあり、対策は必ずしも目標通りには進んでいないようです¹¹⁾。

子どもや若者が結核にかかる、残念ながら、服薬を始めて他の人にうつす可能性がなくなってからも、学校から通学を控えるようにと言われてたり、既往歴を理由に進学や就職などの進路を狭められたりすることが、未だに世界の各地であるようです。そのような状況を変えるために、治療を終えて完治した元結核患者の団体が、結核患者に対する差別や偏見をなくすことを目指して、様々な活動をしています¹²⁾。こうした活動を通じて、子どもの結核患者への配慮と理解が更に進むことを願っています。

ユニオンの呼びかけ

2021年7月に、国際結核肺疾患予防連合（通称ユニオン）は、BCGワクチン100年を期に、改めて世界の各国と資金提供機関が結核の新しいワクチン開発に協力するよう声明を発表しました¹³⁾。

BCGは数世代にわたり子どもたちが結核に罹ることを防いできましたが、新しいワクチンが開発されれば、結核対策をさらに効果的に進められるのではないのでしょうか。

コロナ禍の中でのワクチン接種と子どもの健康

子どもが適切な時期にBCGなどのワクチン接種を受けることは、将来にわたってその子どもの健康を守るために欠かせません。日本では、コロナ禍においても、日本小児科学会などが予防接種の続行を呼びかけ¹⁴⁾、それに応じた各自治体の努力もあり、乳幼児のワクチン接種がおこなわれてきました。しかし、世界には、そのような予防のための保健サービスが滞りがちになっている地域やアクセスが難しい地域もあり、長期的な影響を危惧する声もあります。人々の健康を守るために、子ども一人ひとりの健康を大切に考え、守ることができるように、これか

らも婦人会の皆さまと一緒に活動を進めていくことができると思っています。

参考文献

- 1), 2) 戸井田一郎「BCGの歴史：過去の研究から何を学ぶべきか」『呼吸器疾患・結核資料と展望』48号（結核予防会、2004年）
- 3) World Health Organization, “BCG Immunization coverage estimates by WHO region” <https://apps.who.int/gho/data/view.main.81500?lang=en>（2021年7月13日データ更新）
- 4) 森亨「日本の結核流行と対策の100年」『日本内科学会雑誌』第91巻、第1号（日本内科学会、2002年）
- 5) 『十年誌』（東京都立清瀬小児療養所、1957年）
- 6) 川村猛「東京都立清瀬小児病院」、『病院』56巻12号（医学書院、1997年）
- 7) 『結成40周年記念誌「40年のあゆみ」』（結核予防婦人会長野県連合会、1997年）
- 8) 『結核の統計2021』（結核予防会、2021年）
- 9) 中西好子「小児結核－日本と世界のつながり」『小児科』第60巻11号（金原出版、2019年）
- 10), 11) Global Tuberculosis Report 2020（World Health Organization, 2020）
- 12) Childhood TB and Stigma（Global Coalition of TB Activists, 2018）
- 13) The UNION, “BCG 100th Anniversary Statement: Close the Funding Gap” <https://theunion.org/news/bcg-100th-anniversary-statement-close-the-funding-gap>（2021年7月19日発表）
- 14) 「新型コロナウイルス感染症に関するQ&Aについて」（日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会）https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=326（2020年8月27日最終更新）

特定非営利活動法人
岩手県地域婦人団体協議会
会長 瀬川 愛子



8月3日、岩手県予防医学協会（結核予防会岩手県支部）武内健一専務理事他関係者と私ども含め9人で達増知事を表敬訪問しました。短い時間でしたが、結核の現状と周知を図る複十字シール募金活動

などについて報告し、協力をお願いしました。

武内専務理事からは、「結核は今も発症しており、咳が続くようであれば医師の診断を受けることが大切である。2019年の結核罹患率（人口10万対）は全国で11.5だったところ、幸い岩手県は6.8で、全国1位だったこと。結核はコロナの影に隠れている状況であるが、啓発を続けていきたい」と医師としての立場で具体的に話され

ました。

私からは「これからも引き続き複十字シールの周知徹底と新型コロナウイルス感染予防を併せて活動していきたい」と申し上げました。それを受けて、達増知事は、「結核予防の運動が新型コロナウイルス感染対策にもいかされている」と、評価していただき、有意義な訪問となりました。🐱



8/3知事室にて記念撮影



瀬川会長より達増知事に挨拶

群馬県地域婦人団体連合会
会長 大竹 恵子



8月3日13時15分からの15分間でしたが、群馬県庁29階第2特別会議室において、知事表敬訪問を実施しました。

参加者は群馬県地域婦人団体連合会から2名、結核予防会群馬県支部（群馬県健康づくり財団）から2名が参加しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から最少人数となりましたが、知事の代理として、歌代健康福祉部副部長、中村感染症・がん疾病対策課長と面談することができました。

婦人会長として、結核及び胸部の病気をなくし、健康で明るい社会の実現のため、複十字シール募金の趣旨を説明し、キャンペーンで配布するグッズをお渡ししました。

群馬県では、現在、一昨年発生した新型コロナウイルス感染症対

策と並行してワクチン接種を進め、また同じ感染症として結核も主要な感染症であり、受診控えによる発見の遅れが生じないように、高齢者や外国人、県民のまん延防止に努めているとのことでした。

結核予防には、地道な取り組みが必要だと思います。

婦人会活動は、地域を地盤とする活動です。まず自分の健康を守りながら、結核予防に限らず会員一同「家庭から地域へ」を合言葉に健康の大切さを伝えていこうと気持ちを新たにしました。🐱



(左から) 戸塚専務理事、岩崎副会長、歌代健康福祉部副部長、大竹会長、中村感染症・がん疾病対策課長

滋賀県地域女性団体連合会
会長 鶴飼 淳子



8月2日10時15分から滋賀県健康づくり財団の中井清理事長、結核予防婦人会から私以下副会長3人他総勢7人で中條絵里副知事を表敬訪問致しました。

まずシールぼうやのぬいぐるみをお持ち頂き、全員で記念撮影をし、その後理事長より複十字シ-

ル運動の実施計画やパンフレット等資料をもとにその意義を説明し、私からは「健康の輪」をご覧いただきながら、結核予防婦人会の活動を説明させて頂きました。

中條副知事は厚生労働省から一昨年着任された若くて大変魅力的な方です。昨今の我が国の結核事情について資料をみながら聞いてくださり、複十字シール運動についても県庁の協力依頼をころよくお受けくださいました。最後まで真剣に耳を傾けていただき大変ありがたいと思いました。

さらに、今滋賀県が取り組もうとされている生理の貧困問題にも話が及び、私たちも結核予防婦人会としても、地域女性団体連合会としてもご協力したい旨お伝えしました。

コロナ禍の今は活動しにくい現状ですが、色々な方策を探りたいと思っています。

今後ともシール運動を通して、結核予防を呼びかけたいと決意を新たに致しました。🐱



中條副知事を囲んで記念撮影



熱心に傾聴くださる副知事(左から2人目)

宮崎県健康増進婦人の会
会長 甲斐 恵子



複十字シール運動は、昭和27年に開始され今年で70年目を迎えます。募金活動や広報活動を全国一斉で行う前日、河野俊嗣知事への表敬訪問をさせていただき、複十字シ-

ル運動開始にあたっての協力をお願いしたのは令和3年7月28日の事でした。

私たち健康増進婦人の会3名はマスクに「シールぼうや」のシールを貼り、新型コロナウイルス感染防止対策を講じた上で結核予防会4名とともに参加しました。

本県では101名の方が新たに結核患者に登録され、17名の方が亡くなっています。新型コロナウイ-

ルスで先行きが見通せない状況ではありますが、会員の安全・安心を優先し、県内22の市町村の会員たちと知恵をしまりながら複十字シール募金運動を展開しています。

「人に寄り添い地域を支える活動」をスローガンに掲げ、今後もコロナ禍でもできる活動を見つけ、運動を実施していきます。複十字シール運動へのご理解とご支援をお願いいたします。🐱



2列目中央が河野知事(写真撮影時のみマスクを外しました)



婦人会会長(左)より知事へ申し入れ

新会長就任ご挨拶

群馬県地域婦人団体連合会 会長 大竹 恵子



本年度、群馬県地域婦人団体連合会の会長に就任致しました大竹恵子でございます。微力ではありますが、力を尽くしてまいり所存です。どうぞ皆さまのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

昨年より続いている新型コロナウイルス感染症拡大の影響で各事業が中止になっている中、感染対策をしながら、八月三日、恒例の知事表敬訪問を行いました。

会長になってから、初仕事。人数も会長、副会長一名、県健康づくり財団専務理事他一名の最小人数で県庁に向かいました。健康福祉部副部長、感染症・がん疾病対策課長に、私から複十字シール運動への理解と協力をお願いしました。

さまざまな機会をとらえ、結核予防やその他の健康課題に、会員の皆さんと取り組んでまいります。🐱

愛知県地域婦人団体連絡協議会 会長 山田 久子



今年度より愛知県地域婦人団体連絡協議会会長に就任いたしました山田久子です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私たち婦人会の活動の1つに永年継続して行っています、結核予防募金複十字シール運動があります。それに合わせて副知事表敬訪問をして募金活動の報告と成果を

お伝えしています。結核は古くから日本では国民を悩ます病と位置付けられてきました。しかし医学も進歩し、国民の生活も改善され罹患率は減少してきました。

現在私たちは結核と同じ感染症で全世界がコロナウイルスに襲われています。ウイルスはどんどん感染力が強くなって生まれ変わり、留まる所を知りませんが、このウイルスも結核と同様医学の進歩によりワクチン、治療薬だけが唯一の望みとなっています。ソーシャルディスタンスを守り、手指消毒、節度ある行動をとりながら、地域一丸となって、感染症に対する啓発活動の輪を広げていきます。🐱

鳥取県健康を守る婦人の会 会長 河本 香



令和三年度より会長に就任致しました。よろしくお願い申し上げます。

私は平成二十七年二月に、第十九回結核予防関係婦人団体中央講習会に、参加させていただいた時の感動が、今でも忘れられません。二日間の中で、いろいろと学習させていただきました。同じ目標を持って活動している方々が、全国にこんなにもいらっしゃる、またそんな方々とお話をする事で、モチベーションも上りました。何歳になっても学べるというのは、素晴らしい事です。貴重な学びの時間を与えていただきました。講演の内容を、まずは自分に当てはめて、家族や地域の方々に思いをはせて、聞かせていただきました。

コロナ禍の中、鳥取県としてど

ういう活動が、出来るのか、市民から何が求められているのか、よく話し合っ、少しでも進んでいきたいと思っています。🐱

広島県健康地域女性団体連絡協議会 会長 弓場 美代



今年度より、会長に就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最近では、結核という言葉はあまり耳にすることはございませんが、ときに、患者数・罹患率ともに減少傾向であるとも聞かされております。しかしながら、我が国では結核は主要な感染症の一つともされているようなことから、若い世代、高齢者等、結核の早期発見は大変重要なことと思われまます。

昨年早々より、皆様の心を痛めている、新型コロナウイルス感染症、感染拡大に伴う、まん延防止、緊急事態宣言措置等につきましても、私たちは、状況を真摯に受け止め、三密を避け、マスク、手洗い、消毒、不要不急の外出自粛の励行が大変大切なことと思っております。また、定期的な受診を心がけることが結核等についての重症化予防に繋がると思われまます。

広島県健康地域女性団体連絡協議会としても、結核について、正しい知識を身につけることに努めるとともに、複十字シール運動等へも積極的に参加したいと思っております。🐱

宮崎県健康増進婦人の会
会長 甲斐 恵子



コロナ禍の中、5月の総会書面決議で承認され、地域婦人連絡協議会の会長の就任と同時に健康増進婦人の会会長に就任しました。
県の中央に位置する人口5,000

人弱の木城町の会長を引き受けたのは5年前の事です。その時に九州地区結核予防婦人団体講習会に参加し学ぶ機会を頂きました。結核罹患率が高い“中蔓延国”に位置しているという日本。日本における新たな結核患者は年間約1.2万人もあり、日本だけが患者を減らしても世界で患者を減らさなければ結果的には日本の患者も減らないという現実があります。結核をなくす為には結核に対する関心を

持ち学ぶことの必要性を強く感じました。

私達婦人の会が取り組んでいる複十字シール募金運動の収益金は開発途上国への結核対策支援に活用されています。婦人の会活動を通して結核予防の輪を広げ、結核撲滅につながる複十字シール募金運動を継続していきたいと思えます。それが地域の健康を守る事に繋がると思うからです。🍅

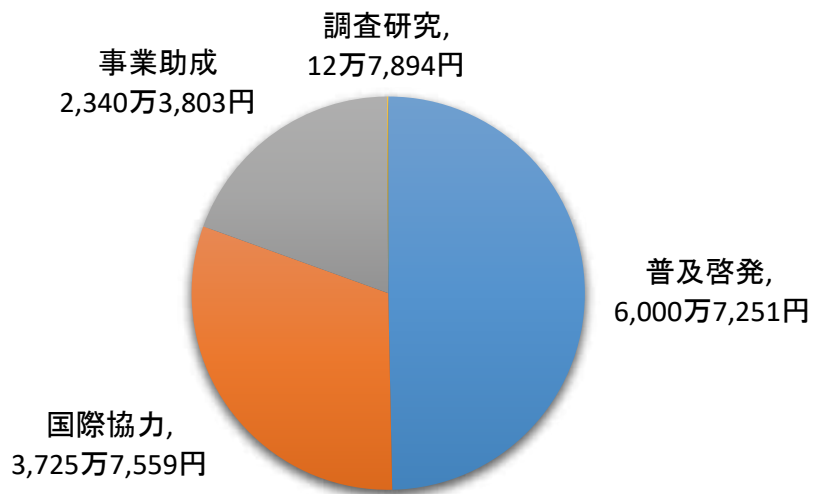
2020年度複十字シール募金結果報告

複十字シール運動期間中、婦人会の皆様方には、街頭やイベントで結核予防の大切さを呼びかけ、募金活動にご協力いただいています。しかし、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止による活動自粛の要請を受け、例年のような活動ができなかった地域も多かったとお聞きしています。そのような厳しい状況の中、支部・本部に寄せられた募金総額は1億8,173万6,480円でした。

シール・封筒・広報資材等の製作費、運搬費等の諸経費と次期繰越金を除いた1億2,079万6,507円（事業費）の使い道は図の通りです。結核予防の広報や教育資材の作成、研修会等の「普及啓発」、アジア・アフリカの開発途上国の結核対策等の「国際協力」、全国の結核予防団体の活動支援「事業助成」、結核の「調査研究」に使わせていただきました。国際協力

については、ザンビア・カンボジア・ネパール・ミャンマーにおいて、日本国内で培った技術、知識、経験を活かした活動に取り組みました。

コロナ禍の大変な中、婦人会の皆様には温かいご支援をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。
(事業部募金推進課)



募金総額 1億8,173万6,480円
事業費 1億2,079万6,507円
(諸経費・次期繰越金を除く)

図 2020年度 募金の使途の内訳

結核予防会寄付型自販機設置のご報告

2020年5月福岡県で9台目の寄付型自動販売機を「なかもハーモニーホール」に設置していただきました。

コラム 子どもの頃のこと

埼玉医科大学社会医学
教授 亀井美登里



2021年の夏

今年の夏は東京オリンピック・パラリンピックに沸いた。無観客だったとは言え、多くの人々がモニターの前で感動していた。コロナ禍で人々と接することがままならない世の中、誰もが本物の感動に飢えていたと思う。

1964年の秋

前回(1964年)の東京オリンピックは、地方の片田舎でラジオを通してアスリート達の戦いぶりを聞いていた。幼いながら、裸足のマラソンランナー、エチオピアのアベベの力走や日本女子バレーボールチーム「東洋の魔女」の激戦ぶりにいたく感動したことを覚えている。

自分の根底にあるもの

この頃、手塚漫画にもどっぷりつかっていた。「鉄腕アトム」、「リボンの騎士」、「ジャングル大帝」がお気に入りだった。思い出せば、今も主題歌が勝手に頭の中で流れ出てくる。主題歌同様に、手塚漫画のテーマが自分の根底には常に流れているような気がする。

夏休みの思い出

小学生時代夏休みは親戚が暮らす愛知県三河の山奥の里で過ごした。近くの小川で水遊びをしたり、

雑木林で虫取りや木登りなど自然と戯れて過ごした。五右衛門風呂に恐々入浴したり、恐怖漫画「おろち」、「へび女」を読んでその怖さに震えて冷や汗をかいた。親戚のお兄さんやお姉さんから夏休みの工作を手伝ってもらったり、他愛もない世間話を聞いたりして、夏的一天が過ぎていった。今から思えば、贅沢な時間を過ごさせていただいたと思う。

たくさんの人々に支えられ、色々なことを教えていただき、いさめていただいた。感謝の一言しかない。沢山の人々や自然との触れ合いによって今の自分があると思う。

今注目のZ世代

現在はデジタル社会である。そのなかで、Z世代が注目されているという。Z世代とは、生まれた時からインターネットが普及しているデジタルネイティブ世代のことだそう。おおむね1990年代後半から2000年代前半に生まれた世代である。これからの世界を支えていく存在であり、今後の社会の価値観や消費行動の中心になっていくとみられる。この世代の特徴は、①ネットリテラシーが高い、②SNSで情報収集、③保守的な金銭感覚、④ダイバーシティを重視、⑤自分らしさを大切にするとされている。

一瞬の緊張感

このZ世代に最近人気なものが

意外にも「写ルンです」。これはその昔流行った使い捨てカメラで極めてアナログなもの。どうやら、一瞬で結果が決まってしまうその緊張感が人気の秘密らしい。デジタル社会ではほとんどのものが修正可能だ。そのなかで、「写ルンです」を使うことで手作り感、いわば人ならではの手ごたえを素直に実感できるからかもしれない。アナログの本質に改めて魅了されているのだろう。

デジタル・デトックス

スマホの溢れるデジタル社会でスマホの弊害が指摘されている。スマホの長時間使用は子どもの大脳発達に遅れが出ると言われている。中国では政府が18歳未満のオンラインゲームを週3時間までに制限するオンラインゲーム規制を行っている。こうしたなか、デジタル・デトックスが提案されている。スマホを手放して自然を無心に味わい、スマホによる脳疲労を癒す試みである。この試みを耳にして、自分の子どもの頃のことを思い浮かべた。

まさに、人や自然と触れ合い、感動すること、つまりデジタル・デトックスそのものではないかと。🐾

オンラインスタディツアー2021開催のお知らせ

結核対策スタディツアーは、結核予防会が複十字シール運動の益金によりネパール、ミャンマー等で行っている結核対策プロジェクトを視察することにより、結核の蔓延している途上国の実状と複十字シール運動の益金による支援の実際を理解し、婦人会活動の強化につなげていくことを目的として企画されました。

ネパールは、平成6（1994）年から12（2000）年まで7回、ミャンマーは、14（2002）年から16（2004）年まで2回、カンボジアは、18（2006）年から令和元（2019）年まで11回（平成17年4月からカンボジア・日本の結核予防会共同プロジェクトの開始を機に、翌平成18年からカンボジアに変更）で、通算30回実施されました。

令和2年は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行により、中止を余儀なくされ、令和3年も、カンボジアへの渡航制限がかかっているため、ツアー催行が難しい状況です。そこで、カンボジア結核予防会をオンラインでつなげ、現地様子を知るとともに、過去のツアー参加者からのご意見をいただきながら、今後のツアーについて考える機会を設けることに

しました。

2022年3月発行の本誌134号に報告を掲載予定です。ご視聴いただけない方も誌面報告をご覧ください。

【オンラインスタディツアー概略】

配信拠点：結核予防会本部（大会議室）

日程：令和3年12月16日（木）

プログラム：総合司会 結核研究所 永田容子

13:00～13:10 挨拶 結核予防会理事長 工藤翔二

13:10～13:35 講義 国際部長 岡田耕輔

13:45～14:00 発言カンボジア結核予防会 所長代理

14:00～14:05 婦人会寄附贈呈

14:15～14:25 メッセージベトナム婦人連盟(予定)

14:35～15:35 発言「参加者からの提案」

15:35～15:40 特別発言 公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 会長

木下幸子

15:40～15:45 特別提言 国際部付部長

小野崎郁史

15:45～15:55 まとめ 永田容子

※10月15日現在（変更される場合もあります）



Human Chemistry, Human Solutions

患者さんの Quality of Lifeの向上が 私たちの理念です。



帝人ファーマ株式会社 帝人ヘルスケア株式会社

〒100-8585 東京都千代田区霞が関3丁目2番1号

PAD011-TB-2103-1

ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



ちふれが、約束すること。

- **高品質・適正価格であること。**
製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。
- **無香料・無着色であること。**
肌によさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。
- **全成分・分量・配合目的を公開すること。**
品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。
- **製造年月をすべての容器に表示すること。**
誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。
- **環境問題に配慮すること。**
毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



ちふれ

あなたの、健康のそばに。



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。